

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	普及広報事業			事業番号	008-061
担当部署名	文化観光	局	歴史遺産活用	部	学芸課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～	施策	(3) 類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進
		寄与するKPI	有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	延べ宿泊者数		
		寄与するKPI	有	現状値	1,031,854人(2018年)	目標値	1,400,000人(2025年度)
		有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も	ターゲット	8.9	
		有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信			
		有・無	指標名	—			
		無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画				
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	文化財保護法・博物館法			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	出先機関			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民及び本市への来訪者	対象数	単位	
			—	—	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	普及業務では、市民及び来訪者への堺の歴史文化を学ぶ生涯学習の場としての機能を担う。特に市内の小中学生に対しては、展示品を通して堺の歴史・文化・伝統を知ってもらうことで、市民の郷土愛の醸成を図ることを目的とする。広報業務では、堺の歴史文化の発信拠点として、その魅力を広報し、博物館への来館を促すことを目的とする。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	<p>【市民及び来訪者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文書講習会の実施 <p>【小中学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験学習会の開催 ミュージアムパスの実施 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館ボランティア制度の導入及び運営 博物館研究報告の作成 博物館事業全般の広報業務 			
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	委託業務の受注者			
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検対象年度	
	博物館の満足度の向上	%	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度	
			目標値	98	98	98	98
			実績値	98	98		
	達成率	100%	100%				
	当該指標を選定した理由	普及広報事業は、博物館への来館促進を目的としていることから、最終的な成果指標として、満足度の向上を設定した。アンケートの実施による。					
	目標値の設定根拠・算出方法	常に前年の満足度を上回る目標値を設定している。					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標		
	体験学習会・古文書講習会の開催回数	回	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
			目標値	10	14	18	
			実績値	8	19		
	達成率	80%	136%				
	当該指標を選定した理由	コロナ禍の影響により、開催回数を減少させていたが、今年度からは予定どおりの開催が期待できることから、コロナ禍以前の目標値を設定した。					
	目標値の設定根拠・算出方法	参加者延べ人数。令和3年度はコロナ禍により実施期間が大幅減のため目標値を下げる。					

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	普及広報事業	事業番号	008-061
-------	--------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	929	1,803	3,964	3,248	4,592	
13 財源内訳	国支出金		0			
	府支出金		0			
	市債		0			
	その他 (物品売払収入・徴収金収入)	33	0	2,450	1,690	1,310
	受益者負担金(使用料、手数料等)		1	10		
	一般財源	896	1,802	1,504	1,558	3,282
14 人件費 (b)	23,240	23,240	19,140	19,140	18,990	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	24,169	25,043	23,104	22,388	23,582	

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源	
								R4
16 事業費内訳	報償費	R4	決算 65	65	パンフレット等作製・配布業務	R4	決算 480	480
		R5	予算 99	99		R5	予算 637	637
	旅費	R4	決算 8	8	冊子等作成業務	R4	決算 300	10
		R5	予算 83	83		R5	予算 300	0
	需用費	R4	決算 354	354	ミュージアムグッズ作製業務	R4	決算 1,500	100
		R5	予算 560	550		R5	予算 1,000	0
広告料	R4	決算 498	498	その他委託料	R4	決算 0	0	
	R5	予算 600	600		R5	予算 280	280	
その他役員費	R4	決算 43	43	工事請負費	R4	決算 0	0	
	R5	予算 133	133		R5	予算 900	900	

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
① 入館者数	回	74,292	118,381
② 上記①にかかる年間経費	千円	25,043	22,388
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	337	189

備考 (算出についての説明等) 普及広報事業の目的の一つとして、入館者の促進があげられるため。

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、体験学習の1回あたりの参加者数を縮小したが、令和3年度と実施回数について比べると8回から19回へと実施回数を増加させたことから、事業の効率性の観点では、単位（一人）当たりの経費としての費用対効果は増大している。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	体験学習会等の普及事業の対象年齢は幅広く、普段は博物館を訪れることのない方々が来館されるきっかけとなる事業と位置付けている。とりわけ小・中学生が来館し、堺の歴史文化に興味をもってもらうことは、郷土愛の醸成を図るとともに、次世代への来館者促進にも寄与するものと考え。また、小・中学生の来館は、保護者層の来館にもつながっていくので、今後も普及事業を積極的に進めることが重要である。
----	--